国立研究開発法人
水産研究・教育機構

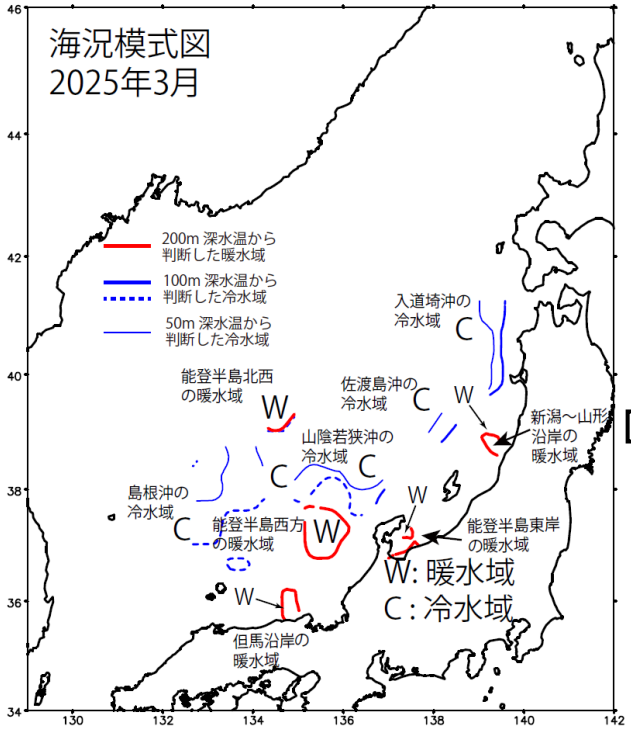
プレスリリース

２０２５年４月９日
国立研究開発法人 水産研究・教育機構

２０２５年度 第１回 日本海海況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(2025年4月中旬～6月）のポイント



（註）用語の定義は以下のとおり。
“はなはだ” ：出現確率約 22 年に 1 回、“かなり” ：出現確率約 7 年に 1 回
“やや” ：出現確率約 3 年に 1 回、“平年並み” ：出現確率約 2 年に 1 回

○能登半島北西の暖水域は南下する。但馬沿岸の暖水域は停滞しつつ東へ拡大する。能登半島西方の暖水域はやや西進し、隠岐島北方に分布する。能登半島東岸の暖水域は弱体化し、消滅する。新潟～山形県沿岸の暖水域は停滞する。

○島根沖の冷水域の張り出しは、面積は平年並みで、やや離岸で経過する。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、やや小さくやや離岸で経過する。佐渡沖の冷水域の張り出しは、面積・接岸距離ともに平年並みで経過する。入道埼沖の冷水域の張り出しは、面積・接岸距離ともに平年並みで経過する。

○対馬暖流域の表面水温は、”平年並み”で経過する。

○対馬暖流域の水深 50 m 水温は、日本海西部及び北部ともに“平年並み”で経過する。

問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構
担当：海洋環境部（新潟）　　奥西、井桁
電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950
当資料のホームページ掲載先URL
https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/

２０２５年度 第１回 日本海海況予報

1. 今後の見通し（2025年4月中旬～6月）

(1) 能登半島北西の暖水域は南下する。但馬沿岸の暖水域は停滞しつつ東へ拡大する。能登半島西方の暖水域はやや西進し、隠岐島北方に分布する。能登半島東岸の暖水域は弱体化し、消滅する。新潟～山形県沿岸の暖水域は停滞する。

(2) 島根沖の冷水域の張り出しは、面積は平年並みで、やや離岸で経過する。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、やや小さくやや離岸で経過する。佐渡沖の冷水域の張り出しは、面積・接岸距離ともに平年並みで経過する。入道埼沖の冷水域の張り出しは、面積・接岸距離ともに平年並みで経過する。

(3) 対馬暖流域の表面水温は、”平年並み”で経過する。

(4) 対馬暖流域の水深50 m水温は、日本海西部及び北部ともに“平年並み”で経過する。

2. 経過（(1)は 2024 年 11 月～25 年 3 月、(2)～(3)は 2024 年 11 月～25 年 2 月、(4)は 2024 年 11 月）

(1) 11 月に能登半島北西に見られた暖水域は、12 月以降にはデータが少なく確認出来ないが、3 月には同じ海域に分布した。11 月に能登半島の西方に見られた暖水域は、12 月にデータが少なく確認が難しくやや東進した様子が見られたが、2・3 月には再び 11 月と同じ位置に停滞する様子が確認できた。11 月に男鹿半島沿岸に見られた暖水域は北上し、2 月には津軽半島沿岸から津軽海峡に分布し流失した。2 月に若狭湾西部に暖水域が出現し 3 月にはやや西進し但馬沿岸に分布。

(2) 島根沖の冷水域は、11 月は面積は平年並みでかなり接岸、12 月は面積・接岸距離ともに平年並み、2 月はデータが少なく確認出来ない。山陰・若狭沖の冷水域は、11 月はかなり小さくやや接岸、12 月やや小さくかなり離岸、2 月は面積は平年並みでやや離岸。佐渡島沖の冷水域は、11 月はやや小さくやや接岸、12・2 月はやや小さくやや離岸。入道埼沖の冷水域は、11 月はやや小さく接岸距離は平年並み、12 月は面積・接岸距離ともに平年並み、2 月は面積は平年並みでやや離岸。

(3) 対馬暖流域の表面水温は、11 月は、山口～島根県、但馬～能登半島西岸、富山湾、山形県沿岸で“平年並み”～“やや高め”、男鹿半島周辺で “やや低め”以外は、”かなり高め”～“はなはだ高め”。12・2 月は調査海域が限られるが、12 月は、概ね”かなり低め”～“平年並み”、日本海中央部では”かなり高め”～“はなはだ高め”。2 月は、青森県沿岸で”かなり高め”～“はなはだ高め”以外は”かなり低め”～“平年並み”。

(4) 対馬暖流域の水深 50 m 水温は、日本海西部で“かなり高め”、北部で“やや高め”。

3. 現況（2025 年 3 月）

(1) 暖水域は、能登半島北西、但馬沿岸、能登半島西方、能登半島東岸、新潟～山形沿岸に分布。

(2) 島根沖の冷水域はやや小さくやや離岸。山陰・若狭沖の冷水域はやや小さく接岸距離は平年並み。佐渡沖の冷水域はやや小さく接岸距離は平年並み。入道埼沖の冷水域は面積・接岸距離ともに平年並み。

(3) 対馬暖流域の表面水温は、島根～若狭湾西部沿岸で“かなり低め～やや低め”、若狭湾東部～能登半島西岸、新潟～山形沿岸、津軽半島西岸で”やや高め”～“かなり高め”以外はおおむね“平年並み”。

(4) 対馬暖流域の水深 50 m 水温は、日本海西部で“平年並み”、北部で“やや高め”。

（註）この海況予報は、国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2022 年 3 月より運用を開始した FRA-ROMSⅡシステムを主に用いて実施し、気象庁による北陸地方の気温の 3 か月予報（4 月～6 月）も参考にした。
引用符（“ ”）で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

”はなはだ高め（低め）” ： 22 年以上に 1 回の出現確率である 2℃程度の高さ（低さ）
”かなり高め（低め）” ： 7 年に 1 回の出現確率である 1.5℃程度の高さ（低さ）
”やや高め（低め）” ： 3 年に 1 回の出現確率である 1℃程度の高さ（低さ）
”平年並み” ： 2 年に 1 回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温

参　画　機　関

地方独立行政法人　北海道立総合研究機構 　　水産研究本部　中央水産試験場 地方独立行政法人　青森県産業技術センター 　　水産総合研究所 秋田県水産振興センター 山形県水産研究所 新潟県水産海洋研究所 富山県農林水産総合技術センター 　　水産研究所 石川県水産総合センター	福井県水産試験場 京都府農林水産技術センター 　　海洋センター 兵庫県立農林水産技術総合センター 　　但馬水産技術センター 鳥取県水産試験場 島根県水産技術センター 山口県水産研究センター 一般社団法人　漁業情報サービスセンター （取りまとめ機関） 国立研究開発法人　水産研究・教育機構 　　水産資源研究所